

琵琶湖海区漁業調整委員会
令和5年(2023年)2月10日
滋賀県水産試験場

アユ資源の状況について

1. 魚探による資源調査

①周回コース

・水深30m等深線付近の周回コースの魚探調査を1月17、18日に実施した結果、1月の魚群数は142群(平年比79%)となった。



図1. 1月の周回魚探調査結果

②全域調査(トランセクト調査)

・北湖に設定した21定線上で実施した魚探調査では、小群換算値は49群(平年比42%)と少なかったが、小群未満の魚群も多くあり、推定資源尾数は 2.07 ± 0.48 億尾(平年比84%)となった。

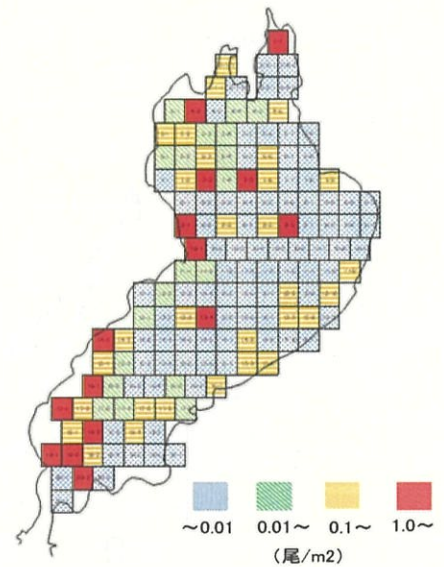
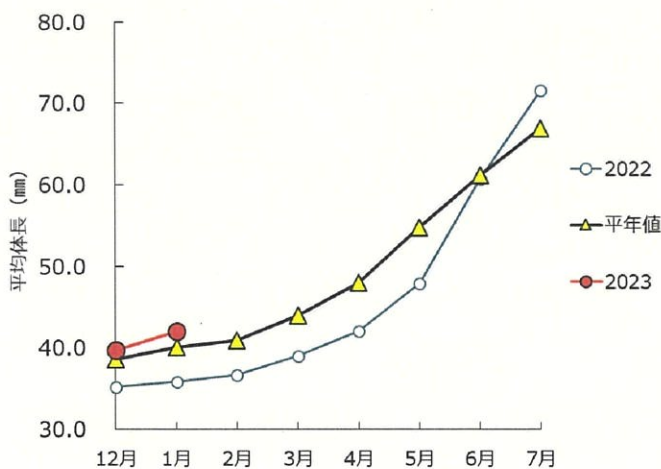


図2. 1月のトランセクト調査による分布密度図

2. 漁獲アユの体型

①エリ漁獲アユの体長

・平均体長は12月から平年値をやや上回り、1月の平均体長は42.1mm(平年比105%)となった。



②エリ漁獲アユの肥満度

・肥満度は昨年より高いものの平年値を下回り、2.46(平年比89%)となった。

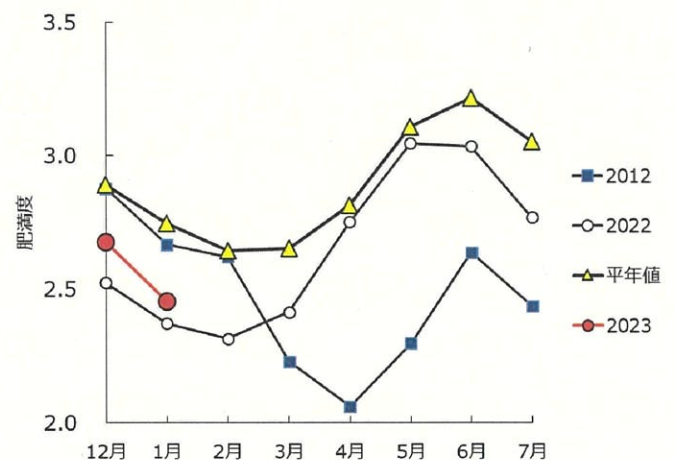


図3. エリ漁獲アユの体型

3. 餌料プランクトンの状況

- 現在、エリで漁獲されている平均体長42mm程度のアユの餌は、主にケンミジンコ類であるが、成長にともない、大型のミジンコ類の割合が増えていく。
- ケンミジンコ類の生息密度は、12月までは平均を上回って推移していたが、1月には平均をやや下回った(平年比85%、昨シーズン比193%)。
- 大型ミジンコ類の生息密度は、12月までは平均を上回って推移していたが、1月には平均以下に減少した(平年比9%、昨シーズン比308%)。

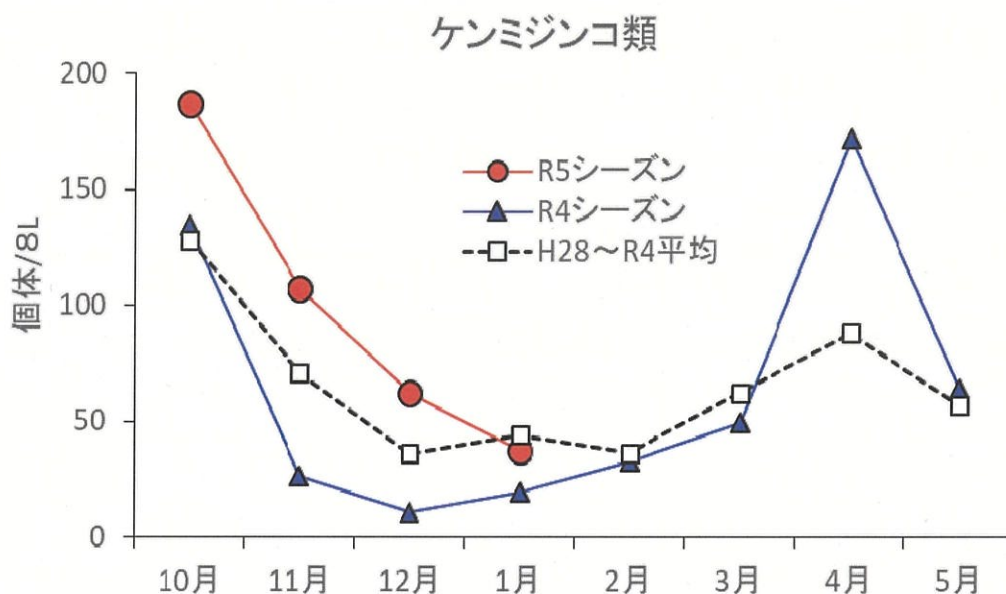


図4. ケンミジンコ類の生息密度

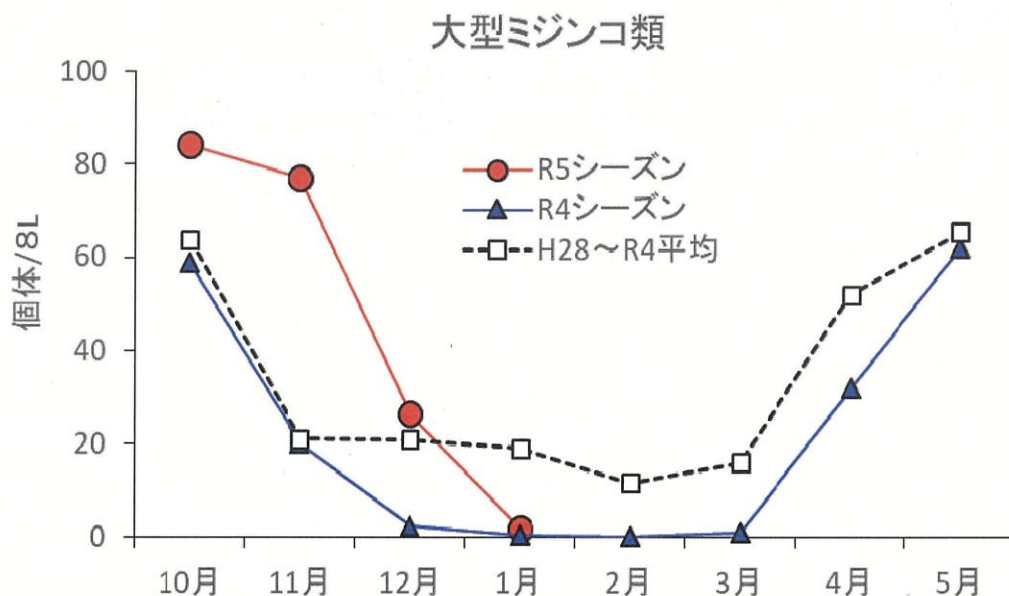


図5. 大型ミジンコ類の生息密度